



# 捏造のからくり

厚労省は毎月全国の事業所の賃金、労働時間等を集計している。毎月勤労統計と云い、雇用保険、労災、育児休業、介護休業等の給付のベースとなる。五百人以上を雇用する事業所全てを対象とする決まり。しかし、東京だけ調査対象を三分の一に。厚労省参事官は「五百人以上の会社は賃金が高い。三分二が抜けると全体の賃金は下がる」と云う。これで統計上の賃金は〇・六%低下。その結果、失業、労災、育児休業等の給付金額も減少。結局、千九百万人に計五三七億円給付減。要するに給付を抑える為に調査対象を三分の一にしたのでは？

二つ目のからくり

さて二〇一八年厚労省はデータを補正。無視していた東京の三分の二を統計に含めた。これで実際の賃金は上がっていないのに統計上の賃金はアップ。「アベノミクスの成果で賃金が上がった」と内閣府は嘘の宣伝。

安倍内閣のデータは？

アベ自公政権の出すデータは疑問だらけ。裁量労働制のデータ捏造、障害者雇用の水増し、外国人技能実習生の残業代、業務上の怪我でも補償無し。森友ではゴミ水増し。政府の身障者雇用では対象外の人を数えた。文科省農水省が獣医大学の定員増を否定したのに、特区として加計の獣医学部新設を認めた。

朝鮮半島の平和の動きを無視して武器爆買い。呆れますね。

あなたはどう思われますか？

## 赤松小三郎の墓

## 金戒光明寺

京都市左京区黒谷町

2018年9月

来週は休みます



赤松小三郎は上田の下級武士。勝海舟の従者として幕府の長崎海軍伝習所で員外聴講生として学んだ。大変優れた人で、英国の軍隊の指導書「英国歩兵練法」を翻訳。京都に私塾を設けた。東郷平八郎もその門下生の一人。赤松は一八六七年に民主的な政権の構想を幕府や薩摩に提案。それは朝廷と幕府を合体し行政府とし、立法府は国民の普通選挙による下局と諸侯、公卿、旗本からなる上局で構成。しかし、政権を奪取しつつあった長州勢や薩摩勢には、天皇を絶対的存在に祭り上げた方が都合が良かったらしい。赤松小三郎は薩摩藩の中村半次郎に暗殺された。

小三郎は京都市東部のくろ谷の金戒光明寺に葬られた。

